

2022年度 児童発達支援 自己評価表

北摂ぴよんぴよん教室

		児童	放デイ	チェック項目(私の教室は……)	はい できている	どちらと もいえない	いいえ できていない	わからない	改善点・今後の課題
児童発達・放デイの指導について共通項目	環境・体制整備	1	1	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	4	0	0 5:一部の曜日、時間帯に片寄りがみられる。
		2	2	2	職員の配置数は適切である	4	2	0	1 6:参加の子どもさんの動きによってはもう少し欲しい
	業務改善	3	5	4	業務改善を進めるための目標設定と振り返りに、広く職員が参画している	3	1	1	2 3:目標はあるが振り返りが少ない。
		4	6	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2	1	0
		5	8	7	自己評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	0	1 5:個別には行っているかもしれないが、教室としてはやられていない
		6	9	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している・できている	4	3	0	0 5:個人的に相談できる環境ではあるが、長期的に行われている様子はない
適切な支援の提供		7	10	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画(児発・放デイとも)を作成している	5	1	0	1
		8	11	10	アセスメントは担当者が主観的に判断しないために、標準化や工夫をしている	2	3	0	2
		9	14	11	活動プログラムの立案を担当チームで行っている	3	3	0	1
		10	15	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	0	2
		11	16	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画(児発・放デイ)を作成している	6	0	0	1
		12	17	15	支援開始前には職員間で打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3	0	0 6:一部のみ
		13	18	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有できている	4	3	0	0 6:一部のみ
		14	19	17	日々の支援に関して正しく記録をとることが徹底されており、支援の検証・改善につなげることができている	6	0	0	1
		15	20	18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画(児発・放デイ)の見直しの必要性を判断している	5	1	0	1
関係機関や保護者との連携		16	21	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい人が参加・参画している	4	3	0	0
		17	24	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2	1	3
		18	27	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関、放デイ関連の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	1	1
		19	29	27	自立支援協議会等へ積極的に参加している	1	0	1	5

		20	30	28	日頃から子どもの様子や状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について保護者と共通理解を持つことができている	6	0	0	1	
		21	31	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者支援の目的で、保護者に対して必要な支援を行っている(両親教室など)	3	3	0	1	
保護者への説明責任等		22	32	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	0	3	
		23	34	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援ができている	6	0	0	1	
		24	35	32	交流会や勉強会等を開催するなどの方法により、保護者同士の交流を支援できている	3	3	0	1	4: まだ充分ではないと思う。もっと交流会勉強会は必要
		25	36	33	子どもや保護者からの相談や苦情・要望について、意見をよく聞いて、対応の体制を整備するとともに、きちんと説明責任を果たし、要望や苦情等にできるだけ迅速かつ適切に対応できている	5	1	0	1	
非常時等の対応		26	37	34	活動概要や行事予定、連絡体制等の必要な情報を子どもや保護者に対して発信できている	6	0	0	1	
		27	38	35	個人情報に十分注意をしている	6	0	0	1	
		28	39	36	子どもや障がいのある保護者と十分に意思の疎通や情報伝達ができるように適切な配慮ができている	4	2	0	1	3: 聴覚障がい者の保護者に対し、情報保障が少ない
		29	41	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	0	1	
	30	42	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練ができている	2	3	0	2	4: 充分では無い	
	31	46	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応ができている	4	2	0	1		
	32	47	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載できている	1	0	0	5	6: 具体的対象児がいない為	
	33	45	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	1		
児童発達の指導について	環境	34	3		指導室等は、本人にわかりやすい環境になっており、事業所の設備等は、障害の特性に応じたバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	1	2	2	
	環境	35	4		清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	2	1	1	4: 重複児で2Fに行きにくい、いけない子どももいる。又階段は小さな子どもには危険
	適切な支援の提供	36	12		児童発達支援計画(個別支援計画)の内容は子ども個々の状況に応じた適切なものになっている	6	0	0	1	3: 地震等の際避難できる環境にない。部屋が狭い等で落下物の危険がある
	適切な支援の提供	37	13		個別支援計画(児童発達支援計画)に沿った支援が行われている	4	2	0	1	4: 計画に沿った形を出来るだけ取るように努めているが…

説明責任	38	33	保護者にわかりやすく支援内容の説明を行い、保護者が納得したうえで個別支援計画(児童発達支援計画)の同意を得ている	5	1	0	1	
	39	22	必要に応じて、母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	0	1	
連携	40	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2	0	2	4:充分出来ている子どもとできていない子どももいてばらつきがある。
	41	25	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	0	0	3:支援学校についてはできているが、その他については十分ではない
	42	26	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	1	0	3:地域の小学校については十分ではない 4:保護者の理解もいり、又小学校の理解もいり、なかなかできない場合あり
非常時対応	43	43	服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの心身の状況を確認している	4	1	0	2	